

猿新聞

編集・発行
山村 準
tel:0595-63-1725
Email
jyun.y@asint.

モンキードッグを 考えるとき

継続性

宇陀・名張地域鳥獣害防止広域対協議会（以下協議会と表記）でのモンキードッグ（以下MDと表記）の現状は、認定犬総数21頭（内2頭死亡）。一昨年、飼主死亡という不幸な出来事もあり、現在活動出来る頭数は、名張12頭宇陀6頭となっています。

尚、現在訓練中の犬が6頭。5名の訓練士養成講習も行っていきます。

だが現状は、人・犬共に高齢化や健康上の問題で、活動しているMDはごく限られた頭数で非常に厳しい状態です。

第4期の候補犬も6頭と少なく先細り現象です。

MD認定までには、犬にもありますが、毎週1回約5カ月間。訓練には飼主も同行して共に訓練を受けなければなりません。

また、パトロールや事故に対する自己責任などが、飼主に大きな負担となつていきます。

行政・地域あげての支援体制を整えることが、MD継続の重要な課題です。

第4期MD 訓練状況

24年度から国の事業からMD育成訓練プログラム



今回の訓練は、奈良県警察犬訓練所「あすかドッグスクール」島田紀子氏が担当され、間もなく認定予定と聞き及びます。

訓練士 養成状況

24年度から国の事業からMD育成訓練プログラムが事業対象外となり、公認犬訓練士に依頼しての育成ができなくなつてい

ましたが、三重県では被害対策の再強化のため、『獣害対策に取り組み集落育成事業』を創設。

本年度からMD育成助成事業を再開しました。これを受け、協議会では、昨年から第4期6頭のMD育成に取り組んでいきます。

訓練士には、基本的な訓練の他に、犬の健康管理や総合的な知識と技術が必要で、JKC（ジャパン・ケンネル倶楽部）の公認訓練士に弟子入りするなどして、5年〜6年にわたり、その技術を学ぶ世界です。僅かの講習で、技術を習得できるという甘いものではないと思

いますが、参加者は地域のためにと真剣に取り組んでいます。

また、道半ばと聞き及びますが、一日も早い訓練士誕生を地域は期待しています。

地域ぐるみで 飼うMD

MD先細りの現状を踏まえ、地域ぐるみでMDを飼育し成果をあげている、滋賀県日野町奥之池のよう試みも必要になつてくると思ひます。

日野町奥之池「地域ぐるみで飼うMD」の概要。飼育者一人を決めて経費（エサ代・予防注射・避妊手術代など）は、集落

多頭数追払い

協議会では、MD導入以来4年目を迎え、現在18頭が地域の協力を得ながら順調に活躍しています。

だが、その成果は、地域によりバラツキがあり、広域的な効果が出ていないのが現状です。

MDCでは、その成果のバラツキを多頭数での追払いで、解消できないものかと、実地訓練に取り組んでいきます。

今後の 取組み方

MDC 畠山 ひさ子

平成22年4月にモンキードッグの認定を受け4年目です。

その間、猿群れを見たら追い払い、「猿群れが居る」と聞けば出動して追い払い、附属にイノシシ、シカを追いかけた我家の犬も1匹は病死。残る1匹も今年5月で10歳。人間の年齢で云えば大型犬は76歳くらい。

犬は人間よりも早く老い、かつ飼主も高齢化や身体の不調、仕事などの所用で追い払い活動がままならぬ事も多々あることをMDC仲間からもよく聞きます。

今後のモンキードッグの活用方法を個々の飼い主への依存だけでなく、獣害多発地域を中心とした近接地域にも、『地域犬』としてモンキードッ

負担。（年間約10万円）集落全員の犬として、追い払いや集落の諸行事への参加、散歩などを全員で行っています。

この取り組みは滋賀県日野町奥ノ池地区がすでに実行し、成果をあげています。

この方法を、協議会や被害地域が取り組んでいけば、各地域に散らばるモンキードッグの「点」が「線」につながって、サル

の群れを山へ追い上げ効果が、一層上がると考えられます。

更にMD養成候補の選定方法として、保健所などで殺処分される不運な犬たちの中で、そのうち一匹でも選ばればその命が救えるのです。

これは行政側としても一石二鳥ではないでしょうか！

※MDC IIモンキードッグ倶楽部。

知って防ごう サルの害

サルは本当に賢いの？
記憶力は人間程度。うまいエサにありついた場所や、怖い人や怖くない人はすぐに覚えます。

ただし、他のサルのまねをしたりサル同士協力して作業をすることはできません。

臭いや音には敏感なの？
嗅覚や聴覚は人間並みで、イノシシやシカほどではありません。

いろんな情報はもっぱら目で見て集めています。見たものには執着します。夜は活動しませんが、月夜には活動するとも云われています。

群れを仕切っているのは？
野生の群れにはボスはいません。成獣のメスが群れを支配しています。オスは群れに合わせて動きますが、成長すると生まれた群れから離れます。群れを離れたオスは、他の群れに加入したり、オスグループを形成

したり「ハナレザル」として単独生活を送ります。これは近親相姦を防ぐ本能だともいわれています。

子供は毎年産まれるの？
野生の群れでは、最初のお産は6〜7歳。その後2〜3年に1回のペースで出産します。爆発的に個体数が増える動物ではありません。ただし農作物に依存して栄養状態がよくなれば初産年齢が早まったり、出産間隔が短くなる場合があります。双子出産の例もあります。

名張A・B群の頭数は？
平成25年度個体調査

名張A群 総数43頭 昨年比 +8頭
名張B群 総数38頭 昨年比 -12頭

サルは、足も人間の手と同じくらい自由に機能し、ゲーチャキパーが出来るほどです？

サルの出没状況 名張A・B群



近頃、A群のサル一頭がB群エリアに侵入しているという情報があります。その一頭は発信器装着の「A1」だそうです。他所のエリアに単独で侵入するのは、オスザルだと思われるが、何故オスザルに発信器つけたのかな？オスザルは単独行動をするので、発信器装着は通常メスザルに限られています。

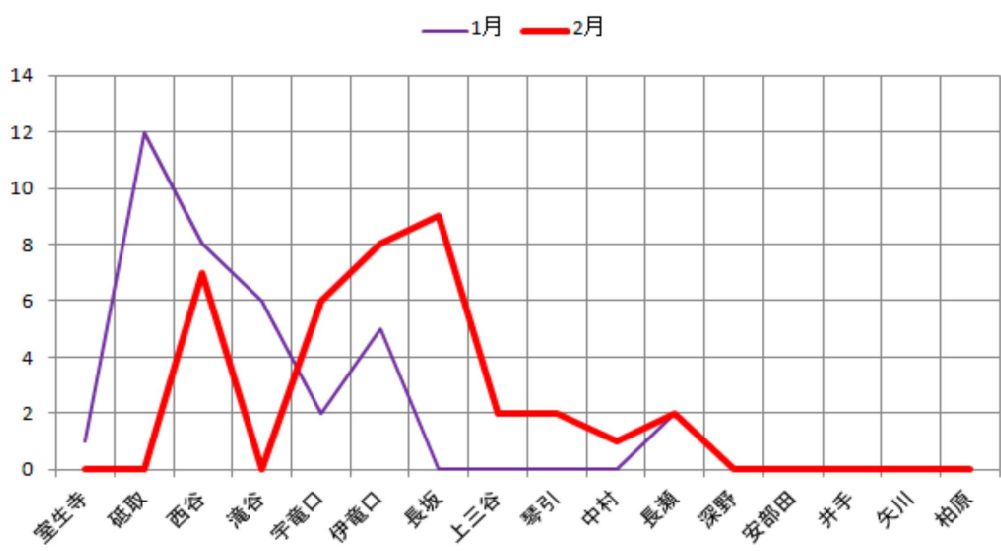
何はともあれ要注意。2月サルの動向 A群は、先月ごろまで、奈垣、布生、神屋付近に熟した柿を目当てに出没していたが、その柿も無くなり、今月ごろから比

奈垣、布生、神屋付近に熟した柿を目当てに出没していたが、その柿も無くなり、今月ごろから比

奈知湖周辺で落ち葉の中の木の实どんぐり等を食して居るのをよく見られ、周辺に滞在することが多い。 B群は、相変わらず国道165号線より南側を遊動していたが、2月26日、国道を渡り三本松室生東小学校裏の山裾で群れを確認した。

去年の夏ごろから行方不明のA郡の旧A1発信器装着オスザル（ハナレ扱い）が、三本松周辺で単独行動しているのを、MDC会員が確認している。旧B3の年老いたサルは、MDC会員により死亡が確認され発信機も回収された。現在発信器装着サルは、A群で新たに2頭、B群で1頭に発信機を装着し、各群れ3頭体制になっている。尚、受信機設定など詳細は名張市農林資源室におたずね下さい。

名張B群移動グラフ



名張A群移動グラフ

